

記 録

移入種ウシガエルによるシュレーゲルアオガエル 雄成体等の捕食

岡山県自然保護センター 森 生枝

Predation by Introduced Bullfrog *Rana catesbeiana* on a Breeding Male of *Rhacophorus schlegelii* and the Other Animals

Ikue MORI, Okayama Prefectural Nature Conservation Center

キーワード：ウシガエル, カエル類, 水生昆虫類, 特定外来生物, 捕食.

はじめに

野生化したウシガエル *Rana catesbeiana* は、その高い捕食性と旺盛な繁殖力のゆえに、捕食や餌資源を巡る競争を通して、他のカエル類をはじめ多くの在来種を圧迫すると考えられている（太田，2002）。

ウシガエルは2006年2月に特定外来生物に指定された（<http://www.env.go.jp/nature/intro/loutline/list/index.html,2008/12/20>）。ウシガエルによる日本産在来カエル類成体（ここでは変態上陸後の個体の意）の捕食例は、今までにニホンアマガエル *Hyla japonica*，ニホンアカガエル *Rana japonica*，トノサマガエル *Rana nigromacurata*，ヌマガエル *Fejervarya limnocharis* およびナゴヤダルマガエル *Rana porosa brevipoda* で報告されている（平井，2005a；2005b；2006a；2006b；2008）。

今回、新たにシュレーゲルアオガエル *Rhacophorus schlegelii* 雄成体の捕食例が得られたので報告する。また、過去に得られたウシガエル死体の胃内容の記録についてもあわせて報告する。

ウシガエルの捕食例

2008年4月25日の例

2008年4月25日の8時40分頃、岡山県和気郡和気町に位置する岡山県自然保護センター（以下、センター）敷地内の上池北岸でウシガエル1死体を発見した。すぐに腹部を切開したところ、胃内容物にシュレーゲルアオガエル7個体、トノサマガエル2個体および魚類2個体が含まれていた（写真1）。

ウシガエルは頭胴長が140mmの成体であった。ウシガエル死体には、動物に襲われたと思われる外傷が認められた。一方、捕食されていたシュレーゲルアオガエルは頭胴長がそれぞれ35, 35, 34, 32, 28, 27, 24mmで、7個体ともにのどに黒色素が認められたことから雄成体と判断した。トノサマガエル2個体の頭胴長はそれぞれ66, 53mmで、魚類2個体については消化が進んでいたため種類は不明であった。

現場である池岸にはショウブやマコモが生育し、発見時には現場直近でアオサギおよびタンチョウ飼育個体が確認されたことから、ウシガエルはアオサギなどにより襲われた可能性がある。また、筆者の記録によれば、現場付近でシュレーゲルアオガエルの繁殖音が2008年4月10日頃から日中でも聞かれるようになり、4月18日には日

中、複数個体による繁殖音が明瞭に聞かれていたことから、捕食されていたシュレーゲルアオガエルは繁殖のために水辺に集まってきた個体である可能性がある。平井（2008）は、ウシガエル成体が他種の繁殖音を餌動物を探索する際の手がかりとして利用している可能性があることを指摘している。

なお、岡山県版レッドデータブックでは、シュレーゲルアオガエルは留意種、トノサマガエルは準危急種とされている（岡山県野生生物調査検討会、2003）。

1995年7月21日の例

1995年7月21日の8時30分頃、センター敷地内のセンター棟南側出入口付近で、ウシガエル1死体の一部を発見した。卵巣の発達状態から雌成体と判断した。胃内容物にアメリカザリガニ2個体が含まれていた。この発見の日の数日後、現場付近で1匹のネコがウシガエルを捕食しているのを目撃したことから、7月21日に発見したウシガエルもネコに襲われた可能性がある。

2000年5月6日の例

2000年5月6日の8時40分頃、センター敷地内のセンター棟北側出入口付近でウシガエル1死体の一部を発見した。すぐに胃内容物を取り出し、エタノール70%水溶液で固定し保存した。後日、この胃内容物を検鏡したところ、オグマサナエ3個体、トビケラ目蛹1個体、ミイデラゴミムシ2個体、鱗翅目幼虫2個体、コガネムシ類1個体、陸生カメムシ類1個体を確認した。

捕食されていたトビケラ目の1種は、蛹の状態であったことから、羽化のために水面近くを移動した際に捕えられた可能性がある。トンボ類の成虫については、石田ほか（1988）を参考にし、翅胸側面中央の黒色条がないこと、翅胸側面の前肩条があること、さらに周囲の生息環境から判断してオグマサナエと同定した。オグマサナエは、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類とされている（http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f3.html, 2008/12/20）。

引用文献

- 平井利明, 2005a. ウシガエルによる日本産在来カエル類成体の捕食の初記録. 関西自然保護機構会誌, 27 (2) : 55-57.
- 平井利明, 2005b. ウシガエルによる水棲半翅類の捕食に関する新知見. 関西自然保護機構会誌, 27 (2) : 65-66.
- 平井利明, 2006a. ウシガエルによるニホンアカガエル雄成体の捕食. 爬虫両棲類学会報, 2006 (1) : 15.
- 平井利明, 2006b. ウシガエルによるアカハライモリ幼体の捕食. 爬虫両棲類学会報, 2006 (1) : 16.
- 平井利明・稲谷吉則, 2008. ウシガエルによるナゴヤダルマガエルの雄成体の捕食例. 爬虫両棲類学会報, 2008 (1) : 6.
- 石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊, 1988. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説. 140pp. 東海大学出版会, 東京.
- 岡山県野生生物調査検討会, 2003. 岡山県版レッドデータブック. 465pp. 岡山県環境保全事業団, 岡山市.
- 太田英利, 2002. ウシガエル, “食用ガエル”のとんでもない正体. 「外来種ハンドブック」(日本生態学会編), 106. 地人書館, 東京.



写真1. 胃内容物にシュレーゲルアオガエル7個体(写真上), トノサマガエル2個体(写真左下)および魚類2個体が含まれていた。シュレーゲルアオガエル7個体ののどには、いずれも雄の二次性徴である薄墨色の部分が認められた(2008年4月25日)。